

薬学部5年次実務実習における原著論文を用いた情報収集・評価実習の試み

○江角 悟¹, 河崎 陽一¹, 猪田 宏美¹, 北村 佳久¹, 千堂 年昭¹

¹岡山大病院薬

岡山大学病院薬剤部では、平成26年度より薬学部5年次の薬学教育実務実習生を対象に、新規院内製剤の調製妥当性の検討に必要な過程である「原著論文を用いた情報収集」を実習の一環として行っている。院内製剤は多様で個別な医療ニーズに対応するため、病院薬剤師により調製され高度・複雑化する医療に貢献している。その特性上、院内製剤の有効性や安全性等の情報は書籍等の3次資料として利用できる場合は少なく、新規院内製剤の調製妥当性を評価するためには邦文・英文を問わず原著論文などの1次資料を用いて情報収集を行い、批判的吟味を行った上で情報を活用する必要がある。本実習は岡山大学病院薬剤部で院内製剤を調製している試験研究室で行い、1班当たり1~4名のグループで行う。過去に医師から依頼のあった院内製剤のうち、国内で使用経験の少ない院内製剤の有効性や安全性などに関する情報をPubMedやCochrane Libraryなどを用いて収集し、内容の批判的吟味を行う。各自が情報を収集し批判的吟味により評価した情報をグループ内でディスカッションし、当該院内製剤の調製妥当性を判断する。また、院内製剤のクラス分類や院内製剤の調製順、使用器具等についても考えさせ、本実習を通じて新規院内製剤の調製に関わる一連の流れを学習させる。本シンポジウムでは本実習による教育効果や学生満足度について報告し、今後の取り組みについて紹介する。